

40-50代主婦の家事レス化と 20代主婦のエキスパート化

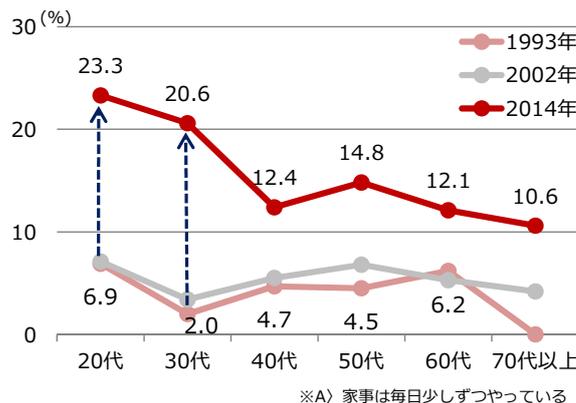
東京ガス都市生活研究所では、1990年から3年ごとに「生活定点観測調査」を実施しています。この中から、「専業主婦」の約20年間の変化を捉えました。共働き世帯が増えた現在も、一都三県では「専業主婦」は既婚女性の半数を占めています。「専業主婦」の家事の実態や意識がどのように変わってきたのかをご紹介します。

専業主婦全体の変化 ~まとめ家事が増加し、買い物の頻度は減少~

家事は「まとめて」が増加 特に20-30代で伸びが大きい

家事は「まとめてやっている」と回答した人が増加しています。特に20-30代では伸びが大きく、2014年には2割を超えています。専業主婦であっても、家事をまとめて行う人が増えていることがわかります。

図1. B) 家事はまとめてやっている*
(たいへんBに近い+どちらかというBに近い)



買い物は「週2回以下」が増加

食料品の買い物頻度を聞いたところ、週に7回以上行う人は、1993年には18.8%でしたが、2014年には6.7%に減少しました。逆に、週2回以下という人が11.6%から28.9%へと増加しています。

2014年には週3~4回以下の人が7割を超え、買い物には2~3日に1回程度の頻度で行く人が主流になっていると言えます。

図2. 週に何回食料品の買い物をするか

